

4月24日号週刊現代の記事に対する見解について

週刊現代4月24日号に、国立がんセンターの記事が掲載されている。事実と異なる記載は、国民に誤解を生む可能性があることから、以下の点について見解を述べる。

1. 本文中「研究のレベルも低い。もっと真面目に働けて。」という記載があるが、4月1日の告示では「個人個人の能力はあるが、統合すればもっと力が延ばせる」と公的に述べている。真意を記載しておらず、誤解を生む表現になっていることは、大変遺憾である。
2. 本文中、大村秀章氏が「脳外科専門で、がん研究でほとんど実績がない」と言ったと記載している。しかし、嘉山は「がん」に関しても世界で初めて人がんの低酸素状態を証明し、それに対する治療で特許も取っている。臨床家としても、日本脳腫瘍学会（脳のがん）、日本脳腫瘍の外科学会の会長を歴任しており（理事長も就めている）、脳腫瘍の分野では、基礎研究も手術も含めて業績は十分と考えており、この事も事実誤認である。
3. 本文中、「嘉山氏は、民主党支持者で」の記載があるが、舛添厚生労働大臣時にも政府委員を務めており、大村氏の発言は事実を捉えられておらず、遺憾である。
4. 以上から大村氏は、「稀少がん」である「脳腫瘍」の患者さんを治療・研究したり、外科手術で頑張って貢献している医療人は、国立がん研究センターの理事長になる資格が無いと考えているのではないかと考えざるをえない。又この事は、個人的には名誉棄損に相当するのではないかと考えられる。大変悲しい見解で、「稀少腫瘍」「脳腫瘍」を治療、研究している医療者にとっては遺憾である。

以上、事実と異なる記載は、国民と患者さん及び国立がん研究センター職員への誤解を生むと考え見解を記した。

国立がん研究センター
理事長 嘉山 孝正